

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、2005年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 48 件

	手術名	件数
1	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	12
2	子宮頸部円錐切除術	9
3	附属器腫瘍摘出術(開腹)	6
4	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	5
5	腹式単純子宮全摘術(ATH)	4
6	子宮内膜ポリープ切除術	4
7	腔式単純子宮全摘術(LAVH)	3
8	腔式単純子宮全摘術+膣会陰形成術	2
9	その他	3
10	子宮悪性腫瘍手術	0

2. 産科診療実績

総分娩数 312、出生児数 351(死産 6)、多胎分娩数 38(双胎 37、品胎 1)でこの年度の帝王切開率は 37.0%でした。以前に比べると増加傾向にありますが、原因として母体年齢の高齢化と多胎妊娠における分娩割合の増加が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(38%)を 35 歳以上の妊婦が占め、40 歳以上の妊婦では 11%を占めています。また、近年は全国的に出産数が減少しています。当院も分娩数は減少していますが、その中で多胎妊娠の割合が増えています。当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膣分娩や双胎妊娠の経膣分娩、未熟児や低置胎盤の経膣分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016 年 10 月より、毎週火曜日と水曜日、金曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。近年の分娩数減少の中で、多胎妊娠の割合は増加傾向にあります。2022 年より NIPT 基幹施設に認定され、出生前診断外来を設置し連携施設と協力しながら毎週月曜日、木曜日に診療を行っています。

● 研究業績

論文

- 1) Miyagi Y, Tada K, Yasuhi I, Tsumura K, Maegawa Y, Tanaka N, Mizunoe T, Emoto I, Maeda K, Kawakami K, Collaborative Res Natl Hosp Org
A Novel Method for Determining Fibrin/Fibrinogen Degradation Products and Fibrinogen Threshold Criteria via Artificial Intelligence in Massive Hemorrhage during Delivery with Hematuria
J Clin Med, 13, 6, 2024, MAR
- 2) 多田 克彦, 中原 康雄, 片山 修一, 影山 操, 赤堀 洋一郎, 井上 誠司, 楠目 智章, 丹羽 家泰, 橋本 一郎
鎖肛の出生前診断と産科一次施設の取り組み. シンポジウム 4「外科疾患の出生前診断」
日本周産期新生児学会誌, 2023, 58, 726-729, 2023 年 4 月 20 日
- 3) 熊澤 一真, 甲斐 憲治, 吉田 瑞穂, 塚原 紗耶, 沖本 直輝, 多田 克彦
子宮頸管短縮症例に対する子宮頸管ペッサリーの使用経験とペッサリーが子宮頸管長に及ぼす影響
日本周産期新生児学会誌, 2023, 59, 3, 366-371, 2023 年 12 月 12 日

学会発表

- 1) 分娩後異常出血で認める凝固障害の分類と凝固線溶系検査値および出血プロファイルの特徴
吉田 瑞穂
第 33 回日本産婦人科・新生児血液学会 2023 年 6 月 9 日
- 2) 当院での多胎妊娠の取り組み
沖本 直輝
第 90 回岡山大学医学部産科・婦人科学教室同門会 2023 年 6 月 11 日
- 3) 抗トキソプラズマ抗体検出キットの違いによる検査値の差の検討
杉原 百芳
第 90 回岡山大学医学部産科・婦人科学教室同門会 2023 年 6 月 11 日
- 4) 分娩時大量出血で認める凝固障害の分類と凝固線溶系検査値ならびに臨床像の特徴
多田 克彦
第 45 回日本血栓止血学会 2023 年 6 月 16 日
- 5) 分娩後異常出血で認める凝固障害の分類と凝固線溶系分子マーカー動態ならびに出血プロファイルの特徴
吉田 瑞穂
第 59 回日本周産期新生児学会 2023 年 7 月 10 日
- 6) 多胎妊婦の妊娠期の保健指導による出産準備行動への援助 ―多胎妊婦用パンフレットを活用した保健指導の効果―
片山 由美子
第 51 回日本女性心身医学会 2023 年 7 月 30 日
- 7) 抗トキソプラズマ抗体検出キットの違いによる検査値の差の検討

- 杉原 百芳
第 75 回中国四国産科婦人科学会 2023 年 9 月 18 日
- 8) 分娩後異常出血で認める凝固障害の分類と凝固線溶系分子マーカー動態ならびに出血プロファイルの特徴
多田 克彦
第 75 回中国四国産科婦人科学会 2023 年 9 月 18 日
- 9) 胎児診断できた(真の)鎖肛症例
多田 克彦
第 1 回胎児直腸肛門研究会 2023 年 9 月 24 日
- 10) 分娩後異常出血において血尿を認めた 2 例の凝固線溶系検査値の特徴
吉田 瑞穂
第 48 回岡山産科婦人科学会 2023 年 11 月 19 日
- 11) 子宮頸管短縮症例に対する子宮頸管ペッサリーの使用経験とペッサリーが子宮頸管長に及ぼす影響
熊澤 一真
第 16 回日本早産学会 2023 年 12 月 9 日
- 12) 骨盤内嚢胞から診断した総排泄腔遺残
甲斐 憲治
第 520 回岡山県産婦人科医会専門医会 2024 年 3 月 17 日
- 講演、研究会
- 1) 座長 早産(2)
熊澤 一真
第 59 回日本周産期新生児学会 2023 年 7 月 9 日
- 2) 座長 産科出血/産科 DIC/羊水塞栓症(3)
多田 克彦
第 59 回日本周産期新生児学会 2023 年 7 月 11 日
- 3) 当科産科専門外来の運用実績の報告-多胎外来、出生前診断外来を中心に-
沖本 直輝
第 17 回ペリネイタルミーティング OKAYAMA 2023 年 11 月 9 日
- 4) 当院に紹介いただいた症例サマリーの報告
熊澤 一真
第 17 回ペリネイタルミーティング OKAYAMA 2023 年 11 月 9 日
- 5) 子宮頸がんの最新治療と予防戦略
政廣 聡子
真庭・御津地域がん診療連携フォーラム 2024 年 2 月 1 日
- 6) 当院での ART 後妊娠と RPOC の関連
福武 功志朗
第 6 回岡山周産期研究会 2024 年 2 月 18 日